

2P

爆薬爆発事故ニ関スル資料

毎

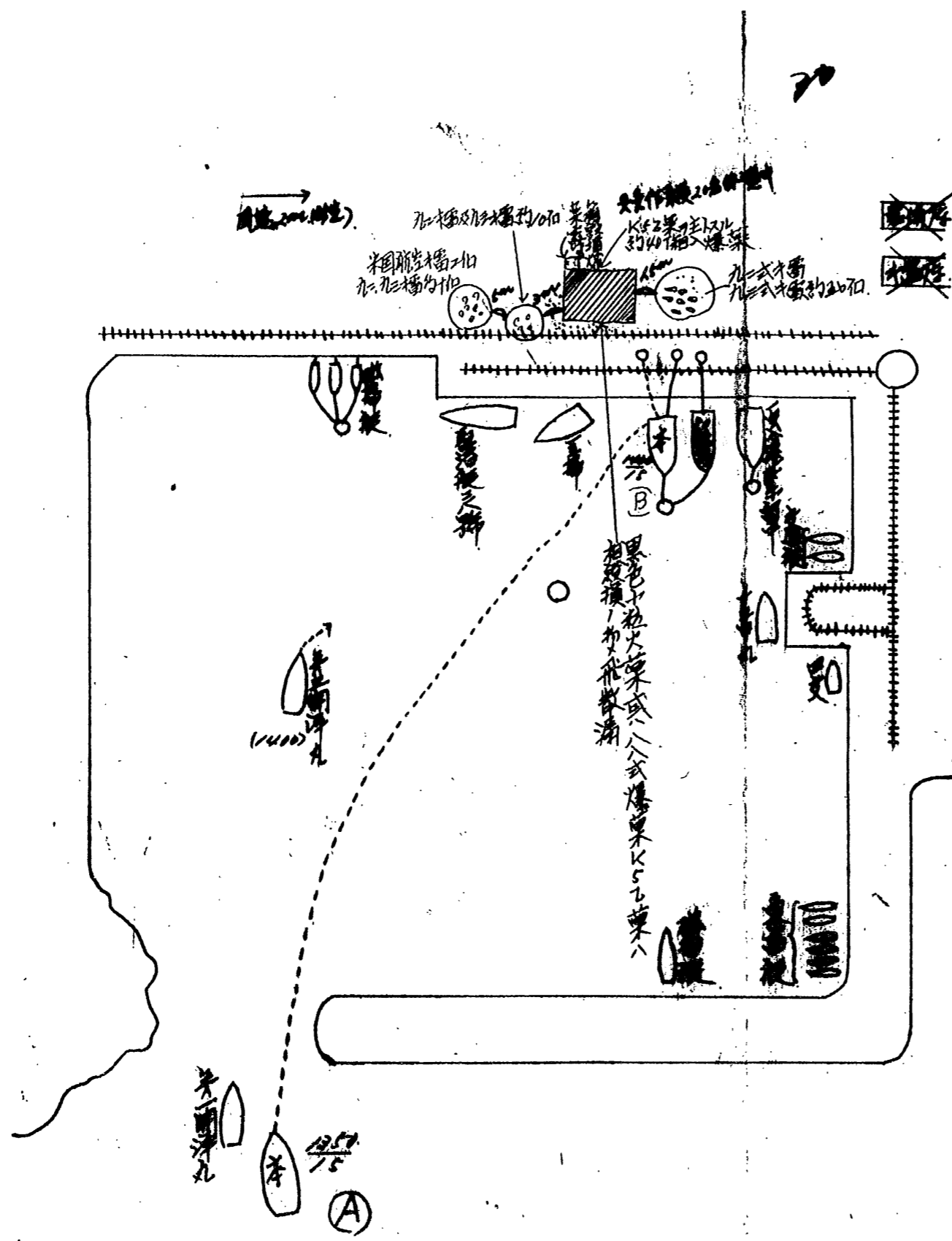
頁

(長
篇
部)

1273

爆薬爆発事故参考資料

- 一 聴取書 十六掃艇長 海軍中尉 由利直行
- 一 〃 八十驅特艇長 海軍中尉 松岡三郎
- 一 〃 十五掃八隊士 海軍兵曹長 一色貫一
- 一 〃 八十驅特信員 海軍上等水兵 深谷清一
- 一 〃 八十驅特乘組 海軍上等水兵 原口 隼
- 一 見取図 事故直前ノモリ
- 一 〃 事故發生後ノモリ
- 一 主として被害状況(人員船艇營造物)
- 一 一般所見事故前ノモリ
- 一 〃 事故發生時ノモリ
- 一 参考事項火薬ノ特性等

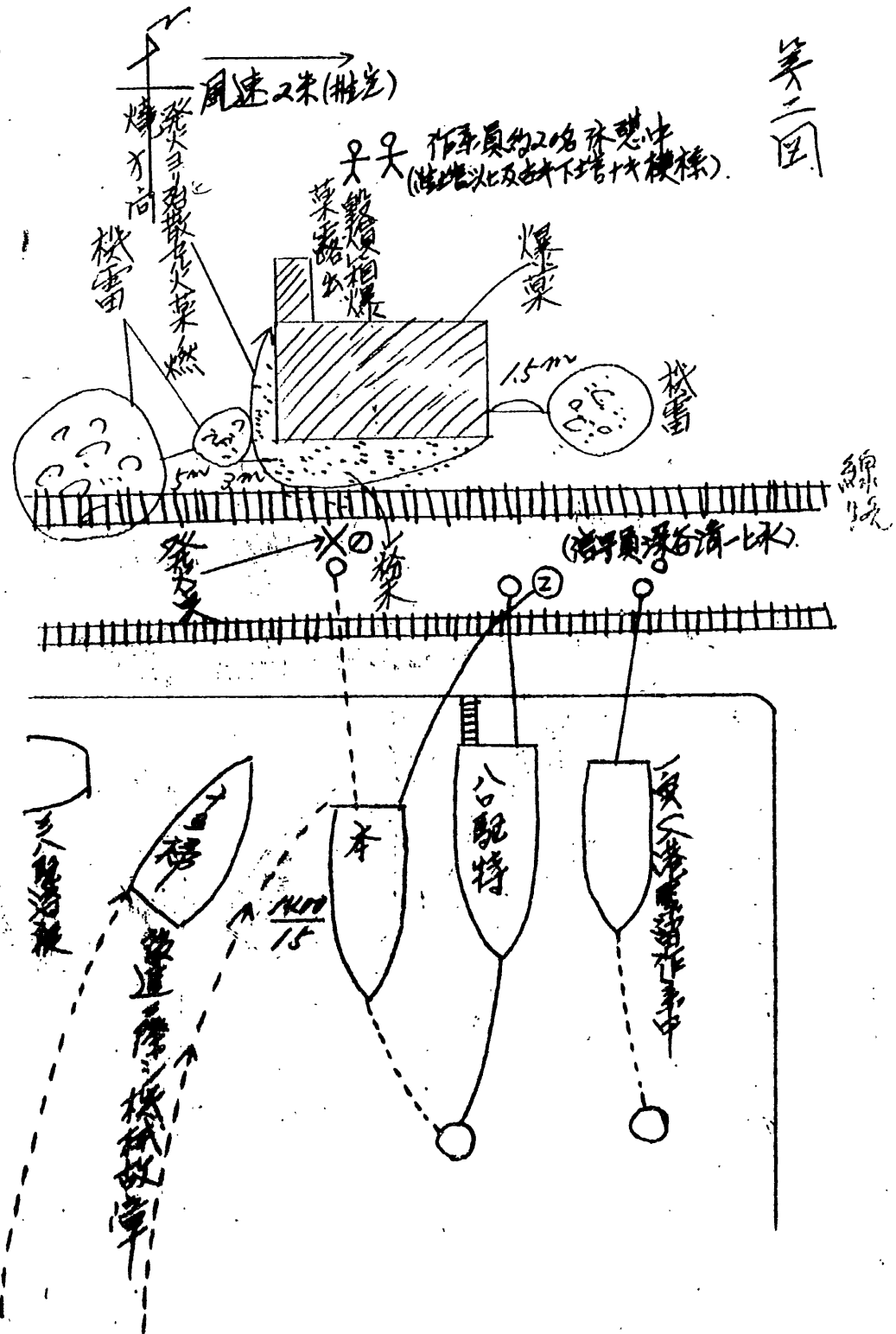


第一図

聽取書
第十六師団海特務艇長

海軍中尉由良直行

一爆發前ニ於テ現場状況(第一図参照)
本艇當日信令ニ依ル爆發物投棄作業ニ從事米側五會
人三名乘艇シニ五〇〇〇中(A)ニ示ス位置ニ歸投一四〇〇
聖特務艇ハ一掃ニ左舷横付ヲ決意シ(B)ニ示ス位置
トナレリ



二 爆発の端緒

本艇は第一回A莫^ク於テハ心配特死「我」貴艇ノ右舷ニ横付
 スト信務ヲ発シB莫ノ位置トナリ陸上作業員ヲ導ク火薬作業
 員ヲ指呼シ艦橋トラセント故ニ数回呼ブモ作業員ハ休憩
 ノ盛度セズ緊急ヲ要スルコトナレバ「ハ」配特「信務員(深倉水)
 (本艇信務ヲ受信セルモノ)見兼テアワタダシク艦橋ヨリ飛下リ陸
 上ニ上リ本艇ヨリノ電線ヲ「ピット」①(栗綱^{栗綱}キネモ)ニ掛ケタルヲ以テ
 横付上ノ「ピット」ニテハ不具合ニ付キ②ノ「ピット」(栗綱キネモ)ニ樹
 クル如ク命ジタリ然シテ該信務員ハ指定ニタル「ピット」ニ樹ク
 ベクノ「ピット」附近馳^馳リタル所「ロール」或ハ石ノ上ニアリタル黒色
 ノ粒火薬若シテハハ式爆薬ノ飛散漏レアルモノヲ執シテ磨擦
 衝撃シ発火瞬時ニシテ火炎ハ風向ニ逆行燃焼シ毀損シ爆
 薬露出セル^{露出}ヲ引火猶火勢ヲ大ニシ漸次以テ五ノ薬ヲ主体

トスル大量ノ爆薬燃焼セリ
三発火ヨリ爆発ニ至ル状況

発火セシメタル信務員ハ下半身火傷ヲ負ヒ夢中ニテ「ボボン」
ヲ號ガシテ逃避セリ之ニ依リ休憩中ノ作業員大ニ驚愕セリ
速ニ退避セリ本艇ハ機雷ノ轟爆ヲ受テ想シ艇ノ保守上「ボ
ンド」外ニ退避スベク陸上ニ注視シテ出港準備ヲイセリ
本艇ニ一突並ニハハ馳特ニシテ銃々向テ港中ヨリシテ南洋丸
ハ直ニ反轉出港「西」ハポイント外ニ出テタリ現場ニ至リ直將
校(塩盛大尉)馳至ニテ来リ防火作業ニ勉メントセルモ現場
ニ突負テテ機雷庫附近ニ隠見スル突負ヲ認メタル如ク機
ヲ持テ突負ヲ指揮シテ消火栓ニホースヲ接続セルモ漸ク水ニ
テ使用スルニ至ラズ火勢ハ積載中ノ爆薬ノ両半分燃焼シ
燃焼ノ火葉ハ愈々火勢増大附近ノ電柱ニ燃ヘ移リタリ機

雷火爆薬ノ燃焼ニ依リ高熱ニ依リ極メテ危険ナル状態トナ
 レリ一四ノ頃陸上ヨリ「オート」三輪消防車来リ消火ニ従事ス
 ニ三分経過致消火栓「ホース」カ消防車ノ「ホース」カ不明ナル
 「ホース」ヨリ極メテ弱キ水圧ニテ散水スルモ此ノ時既ニ爆薬
 ハ「子」程度ニ残り火勢愈々^猛烈ニシテ「子」ニ燃雷爆発セン
 トスル極メテ危険ナル状態ニナルヲ感ズ此ノ間爆発寸前
 危険極マル消火作業ニ従事セル者直將校以下失員ノ状況
 ヲ眼鏡ニ依リ望見ニ悲壯ナル感ヲ打タレタリ此ノ時落
 撃留船艇ハ略「ホント」外ニ退避セルモ十三日ノ九ノ現位置ニ
 撃留^機（機銃部隊陸上修理中航行不能）ノ五掃射機
 銃故障ノ^機「^機」及岩壁ノ「^機」ヲ利用シ極力退避ニ
 勸メツツアル模様、砲台艇一艇前進シシ五掃射機ノ隊ニ
 移動シツツアリ、真雷艇磁掃艇交通艇ハ現位置ノ

ママナリ本艇ハ一番浮標ニ時繫留スベク將近シツ陸上
 ヲ注視シアリタルニ大轟音ト共ニ東側ノ機雷爆発(約五時)
 ト思フ黄灰色ノ爆炎天ニ伸シタリ本艇附近ニ至ル海面ニモ
 ニモ機雷破片飛来シ艦橋上ニ海水ノ飛沫ヲ上ケタリ突回
 ノ爆発時刻ハ西面一西面ニシテ引続キ西側機雷爆発
 セリ尚爆発ノ前即チ積載中ノ煤炭燃焼ノ終期ニ於
 テ西側ノ機雷岳上ヨリ陽炎ノ如キ煙ヲ望見シ退避セル
 為ニ危害ヲ免レタル兵員アリ前記陽炎ハ機雷岳ノ著火
 発熱ノ為機雷岳ノ塗料ヲ油等溶融シ居リタルモノ
 ト思考ス

(終)

聴取書

第八十驅潜特務艦長海軍中尉松岡三郎

一日時昭和三十二年十月十五日一四一〇ヨリ一四二五迄(推定)

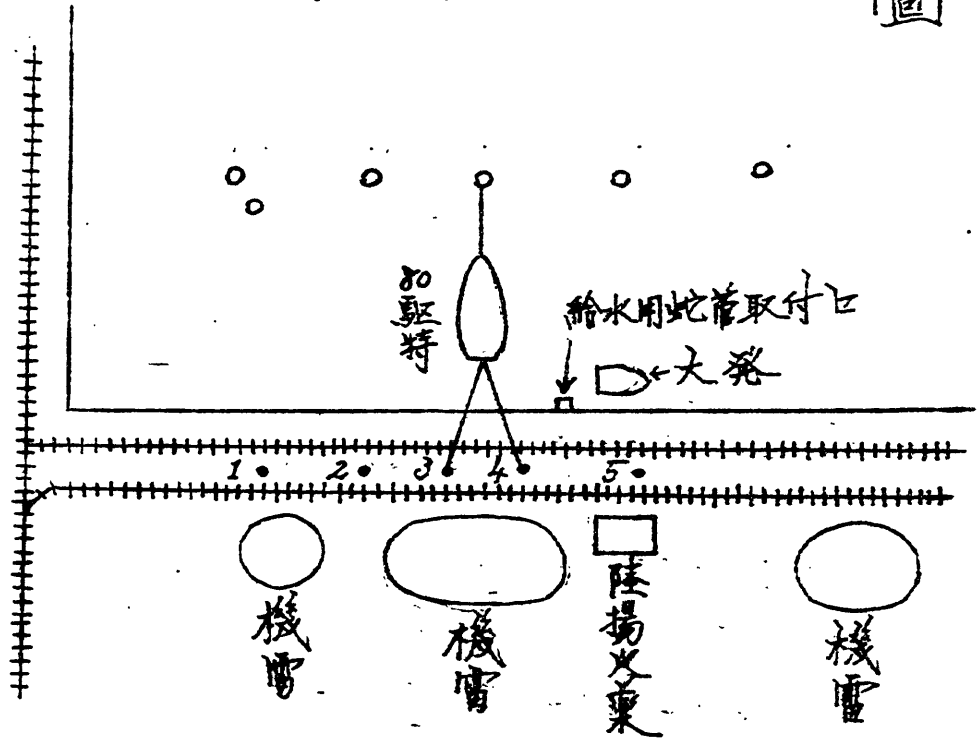
二、發火に至ル迄ノ状況

別図ノ如ク機雷ヲ置キアリ四番及五番^{ポイント}トシ中間ニ大發
 一隻ヲ横付シ搭載シアル火藥ヲ陸揚中^{トキ}約半数陸揚
 済ミニシテ附近一帯脱落セル火藥相當アリセルヲ見タリ本
 艇乗組上等水兵深谷及原口^{二人}ハ山岩壁ニシテ船艇給水
 用蛇管取付口附近(四番ポイント外方)ニテ洗濯中ナリ當時構材
 作業中ナリシ大發一隻ハ十六掃十五掃入港繫留作業
 ノ邪魔^セセル故大發ハ陸揚ヲ中止シ陸揚セシ火藥ヨリ少ク
 シ離レタル所ニテ休憩シツアリタリ其ノ頃十六掃入港ニ系
 リ艇^首ヲ浮標ニ繫留シ山岩壁ニ舳ヒラ取ルタメ後退シ来リ

(長崎船)

タル故陸上ニアリシ前記深谷上水、原口上水ハ一時洗濯ヲ中
 止シテ十六掃ノ舫取ニ方ニ協力セリ始メニ五番ビツトニ取リシガ
 四番ビツトニ取換ヘノ要求アリシヨリ深谷上水ハ五番ビツト
 ヲリ四番ニ移セリ其際一度ハ掛ケ損ヒニ度目ニ掛ケントシタル際
 左足ノ跡附近ニテ發火瞬時ニシテ袴ノ裾ニ燃ヘ移リシタメ直ニ
 袴ヲ披ガ捨テ病室ニ馳ケ込リ尚發火ト同時ニ附近ニ脱
 落シタル火藥ニ引火シ瞬時ニシテ大發火陸揚セシヲ相詰
 火藥ニ燃ヘ移リ

防備隊ポンド 別圖



凡例

○浮標
≡≡≡レール

●繫柱
数字、繫柱番号を示す

35

聴取書

鎮海防備隊附第十五師掃海特務艇海軍兵曹長 一色 尊一

昭和二十年十月十五日一四〇〇頃「ボド」ニ入港シ構付用意下令直
前第八十師驅逐特務艇々尾附近陸上ニ於テ兵員二名莫重シ勝ニテ
何カ作業ヲナシ居テ本艇入港用意下令略々同時ニ前記作業
中ニ二名ノ所ヨリ發火ニ箱詰火藥ノ周圍ニ飛散セル火藥ニ点火シ
續イテ箱詰火藥ニ引火スルヲ認メタリ該作業員ハ直ニ機雷裝備
庫ノ方向ニ走レリ此ノ時陸上ニ兵員約一〇名程居リシガ火藥ニ点
火ト同時ニ西門ト裝備庫ノ方ニ逃ゲタリ此ノ際本艇ハ機械後進
起動困難ニ爲レ其ノ情カラ以テ陸上岩壁（火藥燃燒スル
所依リ約十五米西方附近）ニ艇首ヲ向シテ突當ラシムヲ以テ前後部
繫留索ヲ取リ消防「ポンプ」起動ニ燃燒スル火藥ノ消火ニ努メタリ
シガ圧力弱キ爲メ消火出来ズ尚此ノ時既ニ機雷ノ上ニアル作業衣ニ

ニズエラ
經テ有
カ

26

(長崎)

海軍

点火ニテ居タ爲メ危険ナリト思考シ艇ノ保安ノ爲メ前部後
繫留索ヲ38 駆潜特務艇ニ取り艇ヲ引寄せ前部繫留索ヲスバ
リ前ダイレニ取り後部ヲ右壁ノスベリニ取り終ルト同時ニ機雷
爆發セリ

37

聽取書

(長崎) 納

第十號驅潜特務艇乗組上等水兵 深谷清一

第十號掃海特務艇入港シ来リ同艇ノ纜ヲ取ルヲ

陸上ニ行キタリ十六掃ヨリ投ゲタル纜ヲ一回ハ取り損ヒニ回

目ニテ取リタリ其ノ時既ニ火熱ヲ相當ノ熱ヲ感シタル

タノ海岸沿ヒニ東ノ方ニ暑カク感シテイ所迄(約六千米)

走リ引火燃焼中ノ袴ヲ脱ギ更ニ病室ニ行リタリ

走リタルモ機雷庫ノ所ノ坂道ニテ歩行困難トナリ其處

ヨリ人ニ負ハレテ病室ニ行キ治療中大爆音ヲ聞リ

其ノ間約三五分ト推定ス

當時ノ履物ハ半靴デシテカ裏金ガアツカ不明

火熱ノ感シ方ハ火炎ハ見ヘズ頭ノ方が暑クナリ立ツツ姿ハ力

ヲ後頭ノ毛カ焼ケタリ

要道

纒見
常ヲ取リタル場所

トノド

土障

ピツト

海岸ヨリ水ノ出ル所

約150米

海岸ヨリ約四五間

箱詰ノ欠乗

(終)

海
軍

聽取書

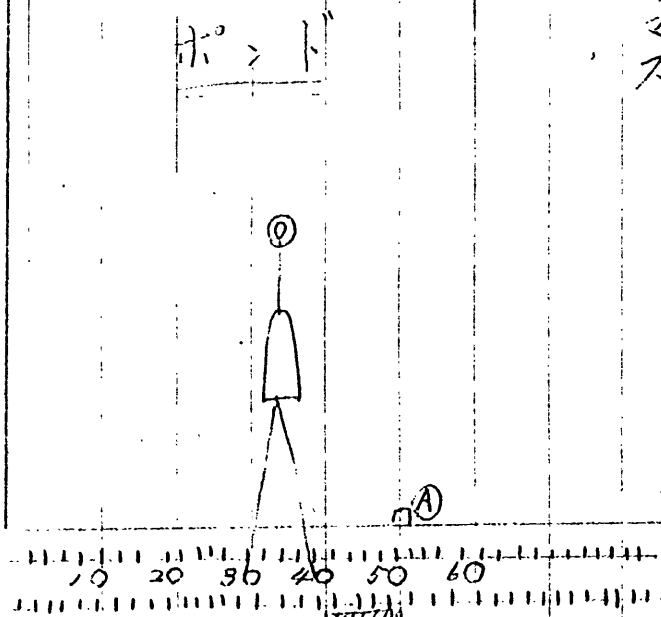
第八十驅潜特務艇 海軍上等水兵 原口等

昭和二十年十月十五日午後二時頃、私、本艇に居りマシタガ十六掃が入港スルノデ、右舷横付用意ノ令ガ下リ、私ハ突張リ棒持テ待テ居リマシタ、其ノ時陸上ニ深谷上水ガ十六掃ノ纜索ヲ取ト爲上ツテ居リマシタガ、藤森兵曹ガ今一人丘ニ上レト言レマシタノデ、私ガ丘ニ上リマシタ、十六掃入港シ来リ「サンドウト」ニ回投ゲマシタガ、届クズ三回目ニ届キマシタノデ「モヤヒ」ヲ握リ一回ハ掛ケ損ニ二回目ニ掛ケ様トシタ時、深谷上水ノ足下ノ方ヨリ火ガ出テ直カ私ノ「スボン」ニ点火シマシタノデ、私ハ危険ヲ感シテ海中ニ飛び込ミマシタソシテ本艇ノ右舷中央ヨリ救助セラレマシタ、其ノ後本艇ハ纜ヲ解キ出港シマシタ、テ爆発ノ時ハ「ボンド」外ニ居リマシタ、十六掃「モヤヒ」ヲ取ツタノハドノ「ピット」カ覺ヘテ居リマセンガ、四番カ五番「ピット」ダツト思ヒマス、ボダ一本モ「モヤヒ」ヲ取付テ「カツタ」事カラ考ヘマス、ト五番デハ「カツタ」カト思ヒ

(長崎)

マス十ニ取リクラ四番ニ取ト言ハレタノハハツキリ判セセニ箱詰ヲ燃ヘ
タ火薬ガ澤山四番ト五番ノ中間デ少シク五番ノ方ニ寄ツテ居ツ事
ハ覺ヘテ居リマス

畧図



凡例

○ ビット

▨ 箱詰火薬

数字 ビット 番

┄┄┄ ┄┄┄
L
ール

◎ 浮標

Ⓐ 給水口

7

主ナル被害状況

一人 員

二船 艇

三營 造物 防備隊

海軍

40

人員		防備隊		探安隊		海兵團		四一突		軍需部	
區分		准士官以上	下士官兵	准士官以上	下士官兵	准士官以上	下士官兵	准士官以上	下士官兵	准士官以上	下士官兵
死											
亡			二三		九		四		六		二
行方不明		三	二〇								一
重傷		四	二四		一		一		三		二
輕傷		九	七九		一三		一		二		
計		一六	一四六		二二		六		三一		二

(長崎)

1291

	東	東
合	下士官兵	准士官以上
計	下士官兵	准士官以上
四五	一	
二四		
四五	二	七
一四七	四	一六
二五九	七	三三

清
軍

二船艇	艇名	被害概況
	掃特一五	全般ヨリ破損変形機械使用不能
	第十三日ノ丸	艇内内板及支柱等破損後部ヨリ漏水ニ工作部浅瀬ニ乗上グ(満水)
	第一(内火)交通艇	火災後沈没
	第三(外火)交通艇	前部上甲板附近大破
	通艇(五隻)	全壊
	カッター(五隻)	全壊
	第五(磁)掃魚丸	機械陸上中機械埋没
	第七(磁)掃魚丸	破孔浸水ヨリ沈没
	水(磁)掃魚丸	船橋附近小損
	第一(磁)掃魚丸	甲板附近小損 「バ」装置使用不能

(長崎)

集 二九號 機械室天蓋より込

全 一三〇號

全 一二一號

全 一二二號

上甲板直経約十粒破孔一あり

魚雷艇五五号 回転窓羅針儀等破損後部燃料タンク室破孔

五五号 回転窓前部燃料タンク室清水タンク室機械室上

甲板小損通風筒一亡失

全 五五号 回転窓羅針儀艦橋出入扉及機械室上甲板前

部甲板破損通風筒一亡失

40

三營造物		名	稱	破損概況
廳	舍	舍	庫	<p>窓ガラス扉大部分破損屋根瓦天井裏一部破損 点灯不能 窓ガラス扉全部破損屋根瓦相替破損(破孔) 点灯不能</p>
兵	舍	舍	庫	<p>側壁一部破損自動車充電器破損点灯不能 全壞</p>
車	庫	庫	庫	<p>半壞セルモ使用不能</p>
隔離 武進 道場	室	室	室	<p>窓ガラス屋根瓦破損建物稍傾斜</p>
治療	室	室	室	<p>窓ガラス及屋根瓦破損</p>
病室	室	室	室	<p>屋根瓦及扉類少損</p>
烹炊	所	所	所	<p>窓ガラス及屋根瓦破損</p>
兵員浴室洗面所	所	所	所	<p>窓ガラス及屋根瓦破損</p>
糧食庫	庫	庫	庫	<p>屋根瓦及扉類少損</p>
被服庫	庫	庫	庫	<p>屋根瓦及扉類少損</p>
防火要具庫	庫	庫	庫	<p>側壁少損</p>

(長崎)

練習部兵舎 (三棟) 及	同烹炊所浴室	装 備 庫	塗 具 庫	木 工 場	金 工 場	仮防着網庫	軽貨油庫	鳩 舎	火薬庫(四棟)	士官 舎	隊内受信所
窓ガラス、屋根破損壁一部脱落		半壊(屋根大部分破損)	半壊	全壊	全壊	全壊	全壊	半壊(使用不能)	屋根瓦一部破損	窓ガラス類破損	窓ガラス、扉屋根瓦破損

終

其他参考事項

一、關係火藥ノ特性並ニ燃燒狀況及使用範圍

藥種	特性	燃燒狀況	使用範圍
八八式爆藥	摩擦ニ對シ極ニ感度銳敏ニテ	起爆藥ヲ用フレ爆	機雷炸藥揚海用火藥
(外觀)	持テ摩擦ニ對シテ	發シ点火タル白煙ヲ	火工兵器ヲ殆ト大部分
灰色粉末	最良ノ狀態ニ至	殘シ急速ニ燃エ	爆彈爆雷簡易兵器
	初動ニテ起爆ス	炎光ハ白味ヲ帯ビ	(註)其他炸藥
	吸濕含水スレバ成	猛烈ナリ	本火藥ノ性能上爆雷如
	カナシ		シ上甲板搭載スルモノハ銃砲
			彈ニ依リ誘爆多キ為新次
			使用範圍狭ハレリツニアリ
			タリ

海軍

黒色小粒火薬	八八式ニ比シ摩擦	起爆薬用ニバ	小銃實包
(外観)	ニ對シテ左程感度	爆發ニ至ル迄ニバ	發音彈(一ニニニ号)
黒色小粉ニシテ	鋭敏ナルモ樹	八八式ヨリ稍速度	
ツヤヲ有ス	撃ニ對シテ極ニ感	遲キモ炎ハ赤味ヲ	
	度鋭敏	帯止黒煙ヲ殘シ燃	
		焼ス	
K五乙ノ薬	摩擦衝撃ニ對シ		機雷炸薬具ノ他
暗灰色粉末	鈍感吸濕スレバ具		
八八式ニ比シ粉粒	特性ヲ失フ		
度荒ク粗雜			

ヲ 頁

二 関係機雷炸薬及其量			
機雷名	薬種	炸薬量	
九三式機雷	八八式爆薬	一〇〇kg	
九二式機雷	八八式爆薬	四〇〇kg	
米國航空機雷	TNT	約 三 五 五 〇 kg	

(長崎館)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

海
軍

45

一
等
勲
章

防備隊機雷事故査問之委員人曹亦委員

海軍大尉 白川 保

見取圖作成、件

昭和二十年十月十五日発生セル機雷爆発事故査問
 上必要ニ付依命防備隊ポンド附近ノ事故直
 前及直後、見取圖ヲ當時同処ニ在リタル参事考人
 言及本職、直接見分セル状況ヲ船綜合シテ作成
 シタル結果別紙、如シ

(別紙見取圖四葉添付)

海軍

1301

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1302

アジア歴史資料センター

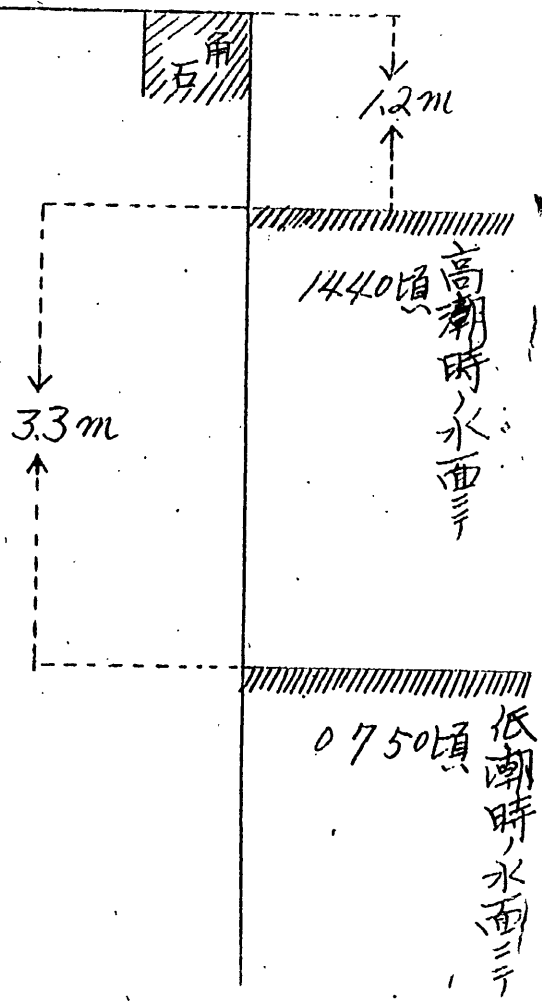
Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

46

岸壁面

事故発生當日ノ潮
 〇七五〇最低潮ヨリ
 次第ニ高クナリ一四四〇頃
 最高トナル



1303

鎮海防備隊 見取圖 説明書

一、現場附近、水深ハ六五米ニシテ岩壁ハ一米角、豆腐石以テ築カル。

二、干満之差 米(別切取紙添)

三、岸壁ニ平行ニ走ル軌道二本ハ巾一・九米間隔四五米ノカ起ニ軍持(五丁)

ニ個ヲ有ス

四、北側、左側ヨリ油庫兼持肉庫倉庫(煉瓦平屋)ハ掩体(巾ニ米 高ニ米)ニ

圍マレ次ニ鉄筋煉瓦、水雷調整場日取近ニ掃海具等若干格納セタリ

次ニ掩体内、木造平屋造ハ金工場旋盤等ノ他ヲ後方ニ鑄造物

瓦期養生器庫ヲ徑テ木工場(木造平屋)塗具庫(煉瓦)以上ノ建物ハ柵

及持雷庫ニ至ル道路ヲ徑テ松山ニ至ル高サ約三十米ニシテ左方ハ

緩傾斜ナルモ建物裏附近ハ可成急ナリ

五 北東 六 鉄筋煉瓦建平屋、格闘装備庫、東西位ニ東側
 及び兵員居住用残りハ掃海用、浮標等格納ス、格闘装備庫
 南側平屋、木造ハ格闘庫、最近各科接收立巻格闘所トシ鎖
 鑰ヲ施シアリ、装備庫、横、坂路ヲ徑テ所備隊高地ニ至ル即チ
 病舎(木造) 治療室(煉瓦) 武道場(木造) 廳舎(三階) 兵舎
 (三階) 煉瓦造ニシテ隣ニ、木造ノ車庫ヲ有ス、廳舎兵舎裏
 六 便所、浴室、烹炊所、缶室、主計料倉庫、理髮所、電源所
 被服庫、防火要具格納庫、並ニ隊内衛兵控所在リ
 隊内ニ北ニ至ルハ元來持雷練習部、木造平屋建、三棟、及
 浴室、烹炊所等ヲ徑テ農園鶏舎ヨリ山城山ニ至ル
 六 東、低地、広場ヲ徑テ清竜川ニ無線山ニ至ル川ニ面ス、凹地ニ

48

<p>掩体ニ囲マシタ木造平屋ハ第一第二火薬庫第一火薬庫</p>	<p>北側ニ主計科食糧格納中第三火薬庫南側ニ掃海用</p>	<p>火工兵器(機小銃彈藥爆破物等)格納中</p>	<p>七南東軍鳩舎三棟及岸壁ニ五下固定カレーン及一五丁</p>	<p>短艇カビツトヲ經テ先端ハ突堤ニ至ル</p>	<p>八南東西ニ走ル突堤ハ巾四ハ米長サ三百米ニシテガト湾口ニ抵ス</p>	<p>九北西格納庫ニ至ル道路ヲ經テ掩体内ニ三四火薬庫何レモ</p>	<p>木造平屋ニテ三庫ハ被服四庫ハ米庫ニ渡ス可キ主計科</p>	<p>需品等格納シアリ</p>	<p>十西軍需部兵器科格納庫(各科還納兵器格納中)</p>	<p>在リ</p>
---------------------------------	-------------------------------	---------------------------	---------------------------------	--------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-----------------	-------------------------------	-----------

海軍

十二
字
前
後

備
序

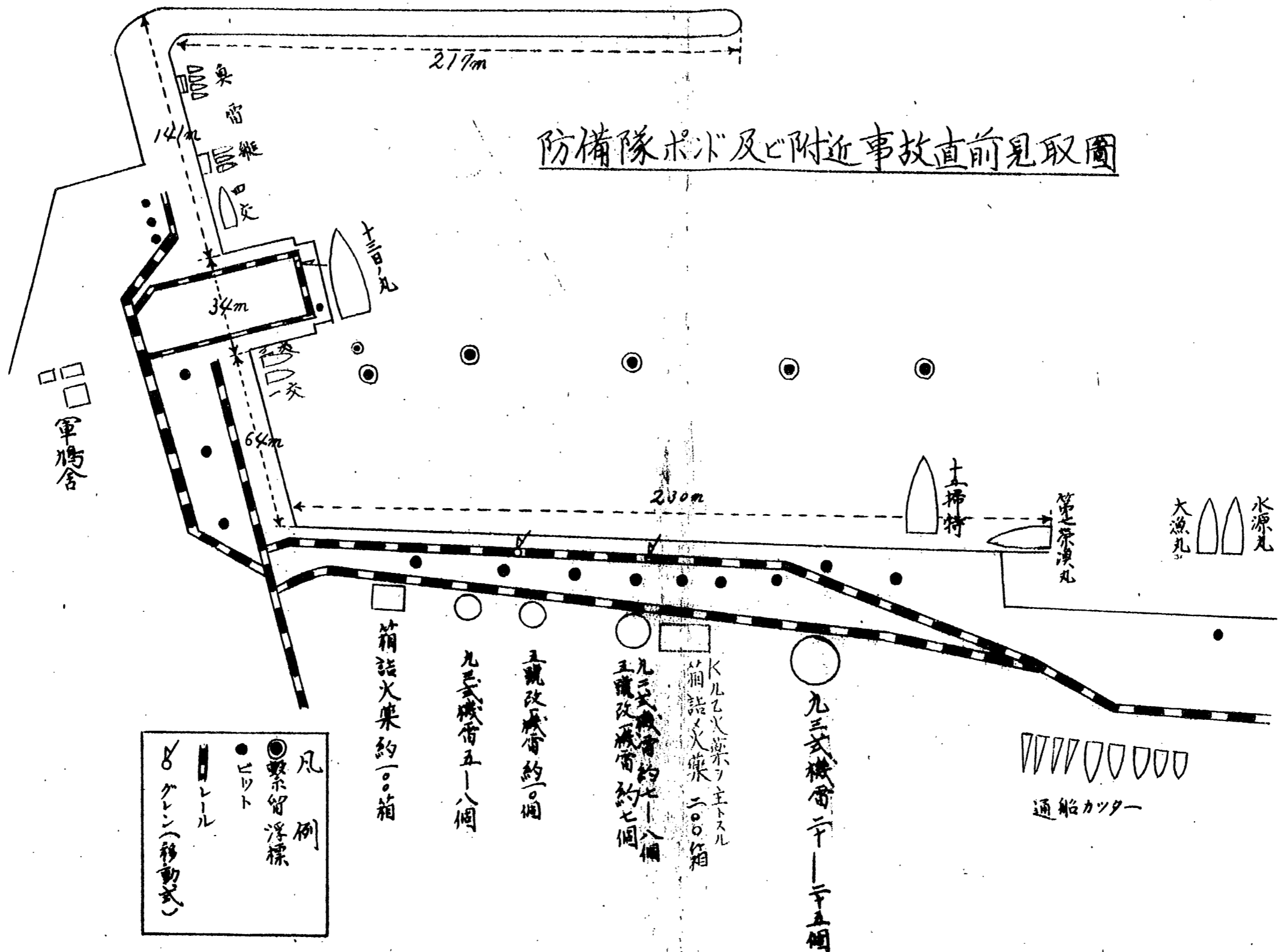
低地爆発現場より観測ス

(別紙市備序前備序見取図添付)

(終)

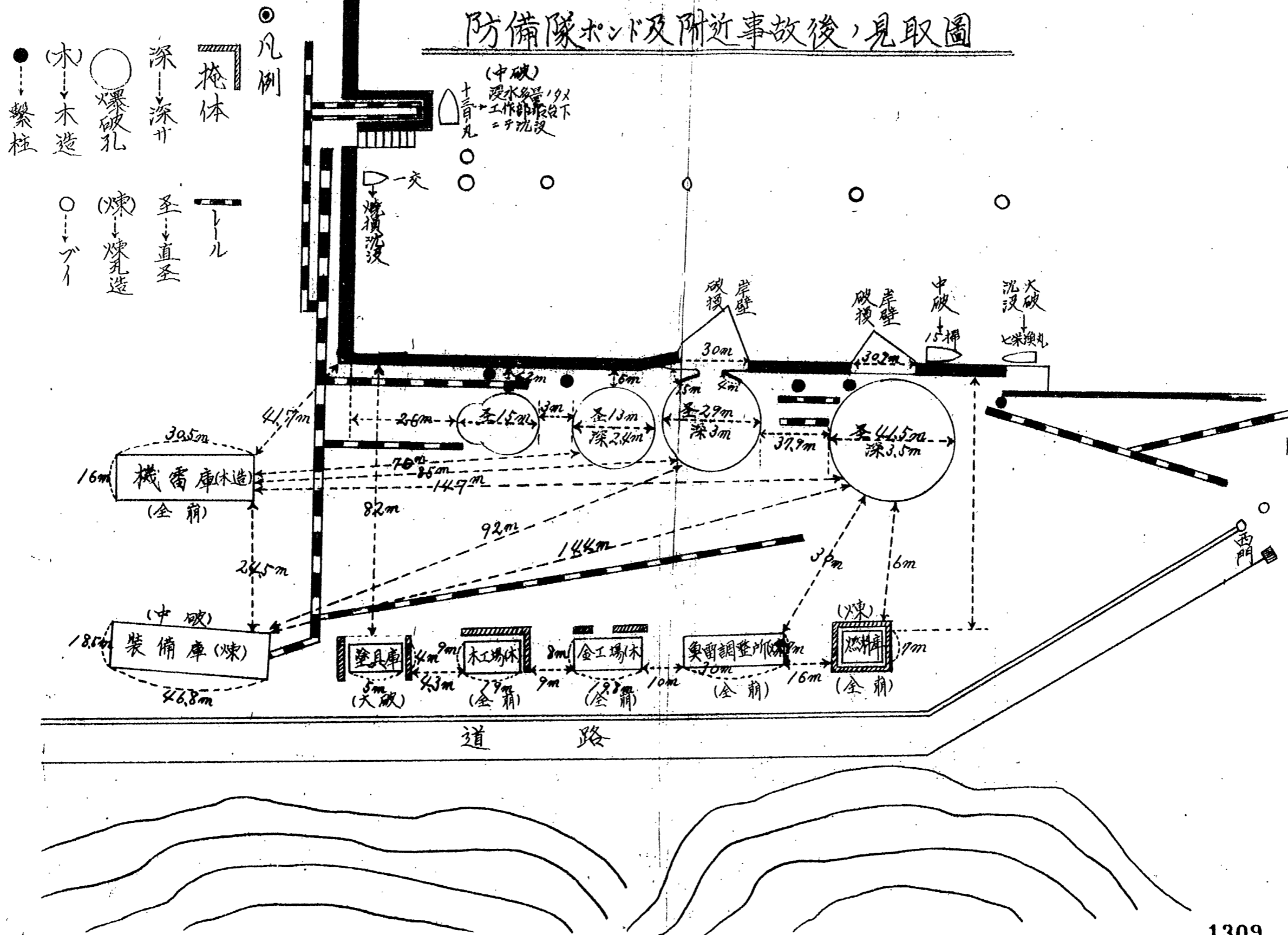
1307

49

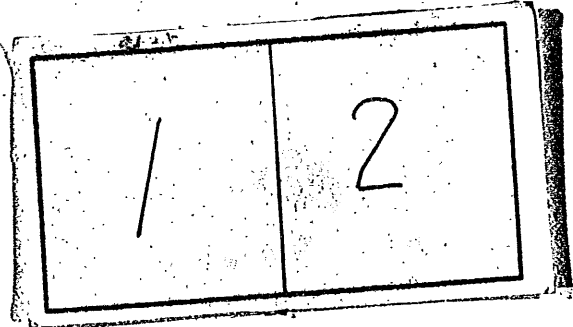


防備隊ホド及び附近事故直前見取圖

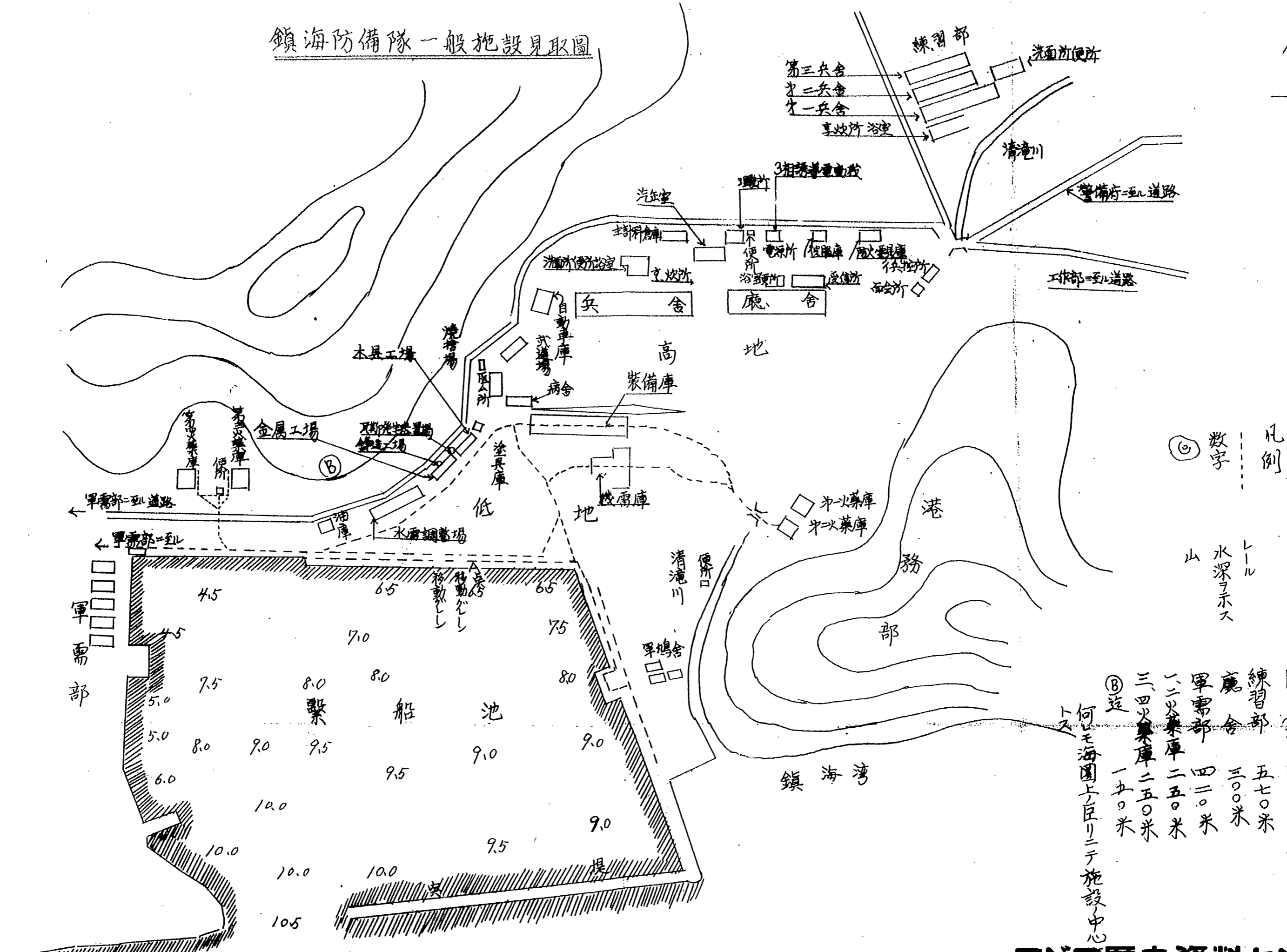
防備隊ポイント及附近事故後、見取圖



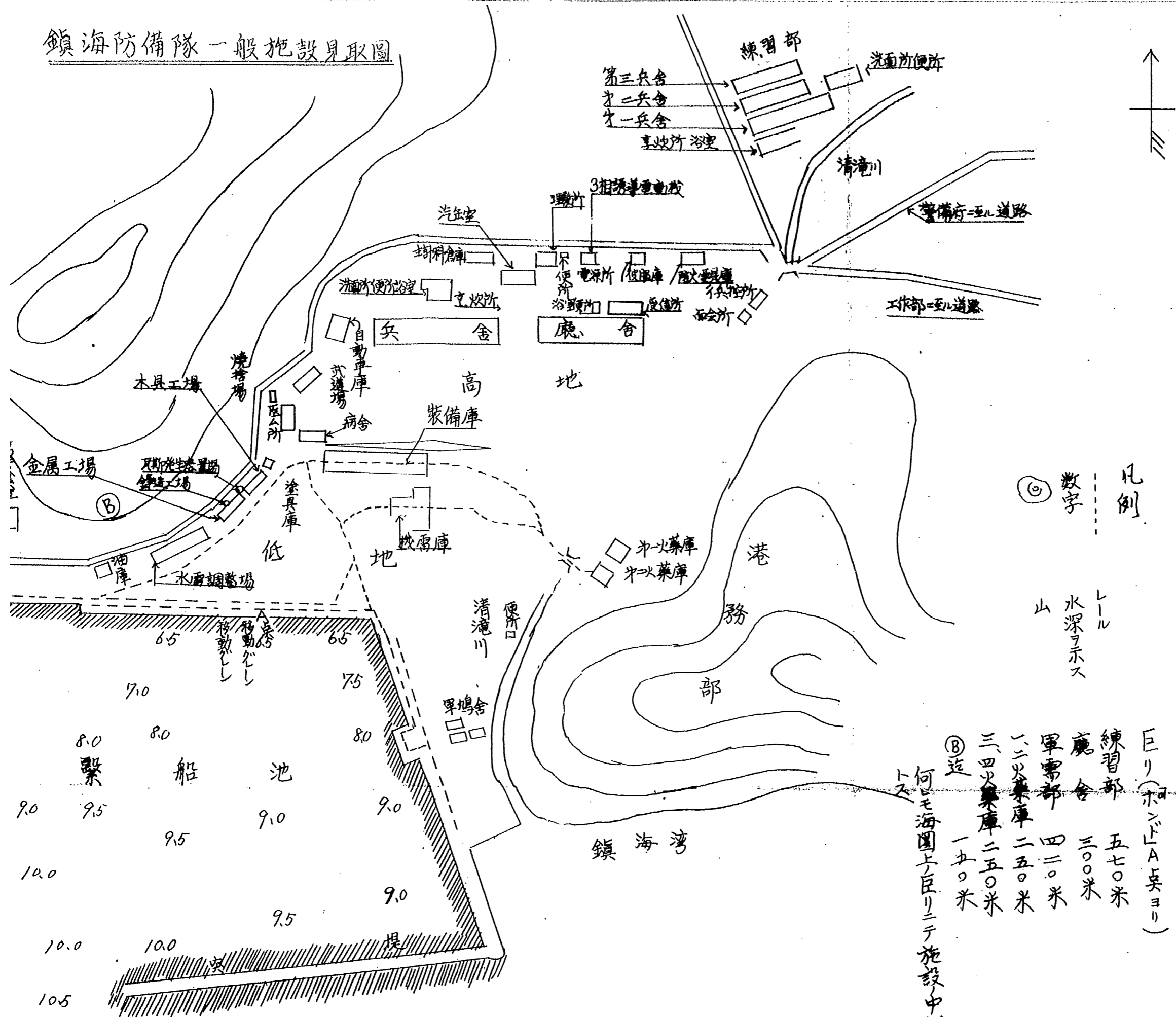
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

鎮海防備隊一般施設見取圖



鎮海防備隊一般施設見取圖



凡例
 数字
 水深ヲ示ス
 山

巨リ(ポイントA兵ヨリ)
 練習部 五七〇米
 廳舎 三〇〇米
 軍需部 四二〇米
 二火藥庫 二五〇米
 三火藥庫 二五〇米
 ②迄 一五〇米
 何モ海圖上巨リニテ施設中心迄

見
事

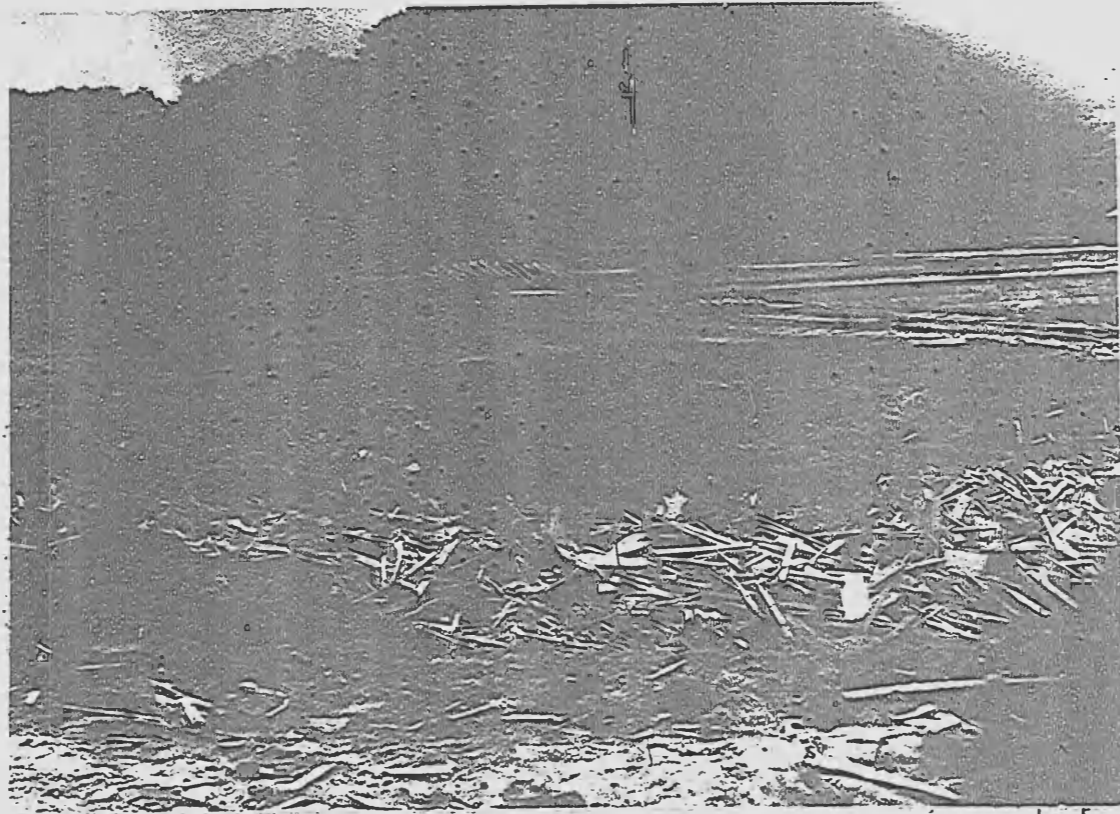
水軍内 審判部 上 佐官 二 付 佐 和 三 年 拾 月 九 日 拾 日
 艦 雷 爆 炸 事 故 二 係 之 鎮 海 防 衛 隊 示 下 二
 至 之 米 女 海 軍 法 政 大 尉 三 小 澤 三 之 書 記 海 軍 中
 法 政 大 尉 曹 長 中 城 文 雄 三 令 上 魏 均 三 撮 影 小
 スル 事 別 紙 添 付 之 具 五 葉 之 連 二 有 之 候
 以 之 撮 影 一 同 日 午 一 時 三 十 分 二 始 之 日 午 一 時 二 時
 三 十 分 二 終 之 候

昭和三年 拾月二十二日

鎮海防衛隊艦雷爆炸事故調査報告

書記海軍中法政大尉曹長中城文雄

中城文雄



九三式機雷五乃至八直轄塔ヶ丸穴(西より)

司込線破壊ヶ丸所
藪原地山天壁

五ヶ又機音麻約十個並箱敷
セム穴



五ヶ又機音麻約十個並箱敷
セム穴

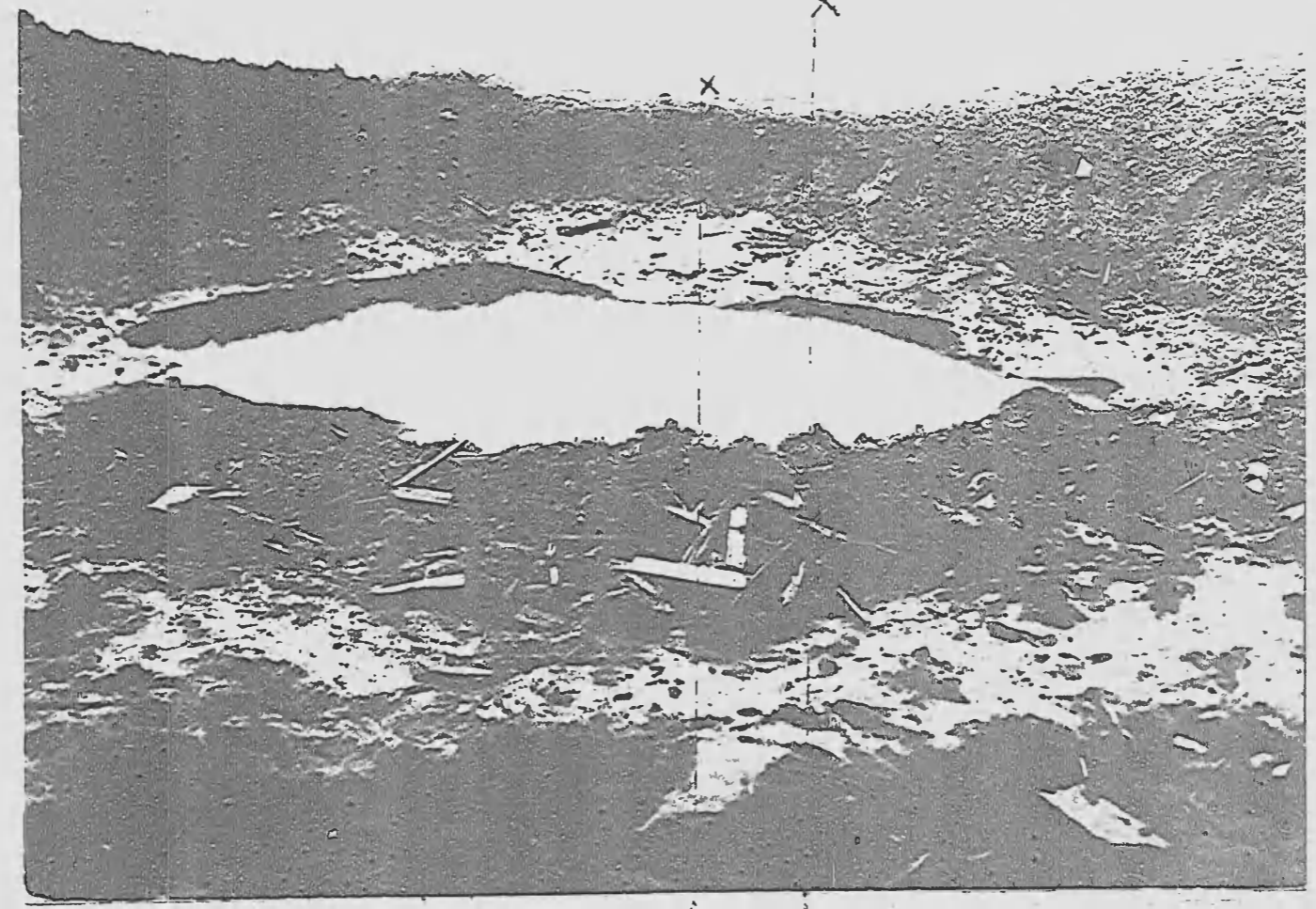
中破セル十五柄持
ニセビツト

九ヶ又機音七ヶ又三ヶ又
五ヶ又機音四ヶ又七ヶ又
手解セル所

岩屋改修場所

墓の形地

42

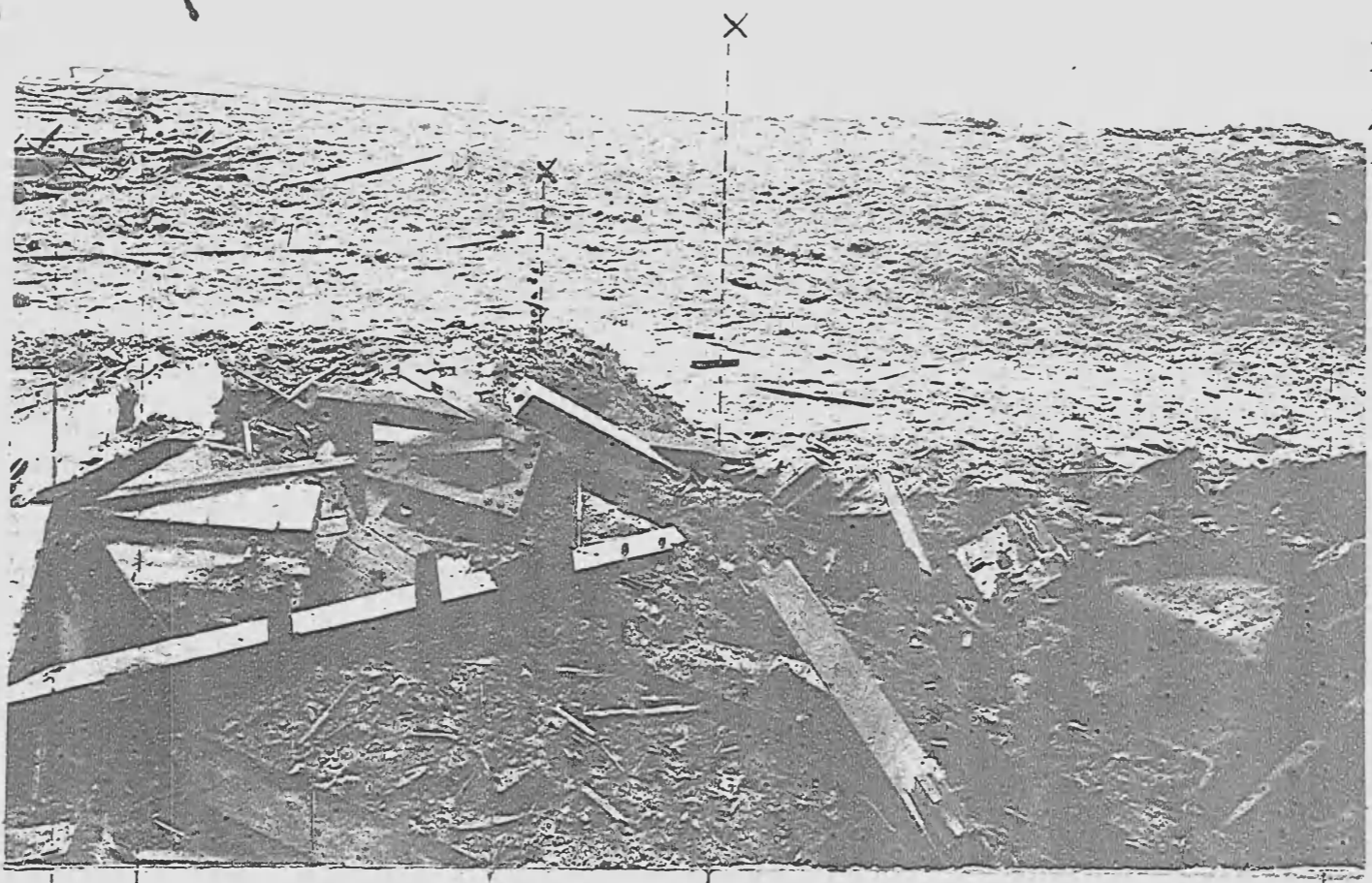


九三武蔵野の三十三ヶ所霊場をめぐりて

船泊地
岸壁崩壊

69

箱詰火薬積載ミツリと地臭北ニヨリ



九式機雷二十個
乃至二十五个機雷七ルカ

撃船地

箱詰火薬積載ミアリ
地臭

ミツ

九式機雷約七八個五號
改一五機雷七ルカ

七

1318

焼たて見 焼たて見 焼たて見 焼たて見



1. 石棚の焼たて見 焼たて見 焼たて見 焼たて見
2. 山頂の焼たて見 焼たて見 焼たて見 焼たて見

47

録取書

鎮海海軍防備隊

海軍中尉 由里直行

大正十年一月二十七日生

右者昭和二十年十月二十日鎮海防備隊機雷
爆発事故査問會ニ對シ任意左ノ通陳
述ヲ爲シタリ

一 私人所屬等級氏名、年令、前述申上げマシテ如クテ

アリマス

一 只今カラ本月十五日鎮海防備隊内ニ於キマシテ機雷が爆
発シテ事故ニツキマシテ私が當時下度ボンド内ニ居リマシタカラ

海軍

ソノ状況ニ就キテ申上ゲマス

一當時私ハ鎮海防備隊所屬第十六號掃海特務艇ノ
艇長ヲシテ居リ、私ハ當日モ鎮海警備府命令ニ依ル
爆発物投棄作業ニ從事致シ米國側立會人ニ名ヲ乗艇
シ一三五〇(別表第一圖中)(A)位置ニ投致シマシテ四〇〇頃
第八十號駆潜特務艇右舷ニ横付ケシヨウト思ヒ爾後(B)
ニ示ス位置ニ到リマシタ

一勿論第八十號駆潜特務艇右舷ニ横付スルニツキマシテ(A)
ト莫ニ居リマシタトキ信號ヲ以テ第八十号駆潜特務艇ニハ
連絡ヲ取ツテ居キテ定通りノ行動ヲシテ(B)ト莫ニ至ツタ
ノデアリマス

イ

一、私ノ艇ガ(B)臭ニ至リ山岸壁上ニ積ンデア火薬ノ北側ニ二十名許
 リ居ル陸上作業員ヲ指呼シ纜ヲトラセヨウト思ヒマシテ数回
 呼ビマシタモノ、作業員ガ休憩シテ居リマシテ夫タリマセ又ノテ
 第八十号持勢駆済艇ノ信号員、深谷上ノ原口上ノ之ヲ
 見兼テ艦橋ヨリ陸上ニ揚リ本艇ヨリノ纜ヲ「ビット」(別表第五号)
 ①ニカケタルヤ第八十号駆済持勢艇ニ横付ケスルニハ②「ビット」
 デハ大妻不具合デアリマシタノデ③「ビット」ニ掛ケル様私ハ命
 ジマシタ。ソノ為深谷、原口ハ指定サレタル④「ビット」ニ掛ケル為
 ⑤「ビット」ヨリ「纜」ヲ取外シ⑥「ビット」ニ掛ケ初メタル際レール或
 ハ石ノ上ニ飛散シテ居リマシタ黒色小粒火薬カ又ハハハ式
 爆薬ガ深谷上水ノ右足下辺ヨリ突然發火シ瞬時ニシテ

海軍

火災ハ風向ニ逆行燃焼シ其處ニ積ニテアル火薬箱ノ一部カ
 毀損シ中カラ露出シテナルト五乙火薬ニ燃焼シタリヤリマス
 一深谷上水ハ火薬発火ノ爲下半身火傷ヲ負ヒ逃ゲテガラ
 「ズボン」ヲ脱シ、原口上水「モヤイ」ニ身ヲ掩シテ海中ニ飛び込
 ミ逃避シタヤウデアリマシタ、又休~~息~~憩中ノ作業員ハ大変
 驚キ急速ニ逃避致シテ居リマシタ、私ノ艇モ機雷ノ轟發
 ヲ予想シ艇ノ保安上「ボンド」外ニ逃避スル爲陸上ニ注意心
 シツ、一四〇八頃外「ボンド」ニ出マシタ
 一火災ノ急接ニ防備隊ヨリ現場ニ馳ケツケタル當直將校
 (塩盛大尉)防火ニ勤メントシタルモ作業員其ノ場ニ無ク
 機雷庫附近ニ隱見シタル兵員ヲシテ消火栓ニ「ホース」ヲ

接續シタルモ断水ノ模様ニテ水ハ出ズ火薬ハ次々ト燃焼シ

火勢増大シ加熱ニ依リ機雷ハ増々危険ノ状態トナリマシタ

一四一五頃三輪車馳ケツケテ消火ニ從事ニ三分後ニテ水

圧弱キ散水ヲ見マシタカソノ時ニ既ニ火薬ハ之ヲ以上燃焼シ

火勢ハ猛烈ニナツテ居リマシタ

一此ノ時私艇ハ「ボイド」外ニ居リマシタテ私ハ消火作業ニ

従事ニテ居ル當直將校以下兵員ノ状況ヲ眼鏡ニテ望

見ニテ居リマシタ

一當特「ボイド」内ニハ十三日ノ丸(第一團中位置ニ機銃一部

修理中ノ航行不能)ト第十五掃海艇(機銃故障)ハ

「パイ」及岸壁ノ「ピット」ヲ利用シ退避、駆逐艇一艇ハ前進シ

第五掃海艇ノ蔭ニ移動シツアル模様デアリマシタ又
 魚雷艇磁掃艇、交通艇ハ別表第一圖ノ儘デアリマシタ
 一本艇ハ一番浮標ニ一時繫留スベク進ミツアリマシタトキ
 一大直轄艦音ト共ニ東側ノ特雷が爆発(約五個)シ本艇
 附近ニモ破片飛來シ艦橋ニモ海水ノ飛沫ヲ受ケ瞬時
 シテ引續キ第二回目ノ西側機雷ノ爆発ヲシマシタが時間ハ
 大体第一回ノ四四頃第二回目ノ四四五頃デアリマシタ。
 一私ノ艇海中放棄作業ニカリマシテカラ一週間位ノ作業
 回数ハ大体六七回(一日一回ニナルト思ヒマス)火薬運搬作業
 ハソノ中三日目位ト記憶シマス
 一火薬取扱ニツキマシテハ艇ニ於キマシテ一艇員ニ克ク注意

ラ興ハ危険物ナル注意ノ事項ヲシテ四直キマシタガ陸上作業
 員等ニ対シテハ私ノ作業指揮下デハアリマセヌノテ其ノ者達
 ニ如何様ニ注意シテ受ケテ居ルカモ判リマセヌ又第八号
 持勢駆逐艦ノ者達一同艇長ヨリ受ケテ居ル事ト思ヒマシタ
 爆薬運搬作業ハ山石壁迄ハ陸上作業員ガ運搬シ艇ニ
 積込ムトキハ艇ノ作業員ヲシテヤツテ居リマシタ
 一海軍デハ船ヲ山石壁ニツケテ纜ヲ取ラセルトキハ大体陸上ニ居ル
 作業員ガヤツテ居ルノカ通例ニテアリマシタ
 一當時ノ現場ハ一面ニ小石ヲ敷キツメ火薬集積ノ直カ側ニ
 機雷モ三個所位ニ集積シテアリマシタ今日ノ事故ノ原因ハ
 纜ヲ四ツトニ掛ケ様トスル深谷上ノ靴ノ底ノ金具ト

下ノ小石トガ摩擦ニテ火ヲ発シソレガ附近ニ散ラハツテキル
火薬ノ粉末ニツキ続ク晴天ノ爲火薬類モ乾燥ニテ居リ
マシタ爲直ニ発火シタモノト思ワレマス
一他ニ云フコトハアリマセヌ。

62

右録取ス

昭和二十年 拾月 拾日

鎮海防備隊機雷爆發事故査問會

書記海軍法務支曹長

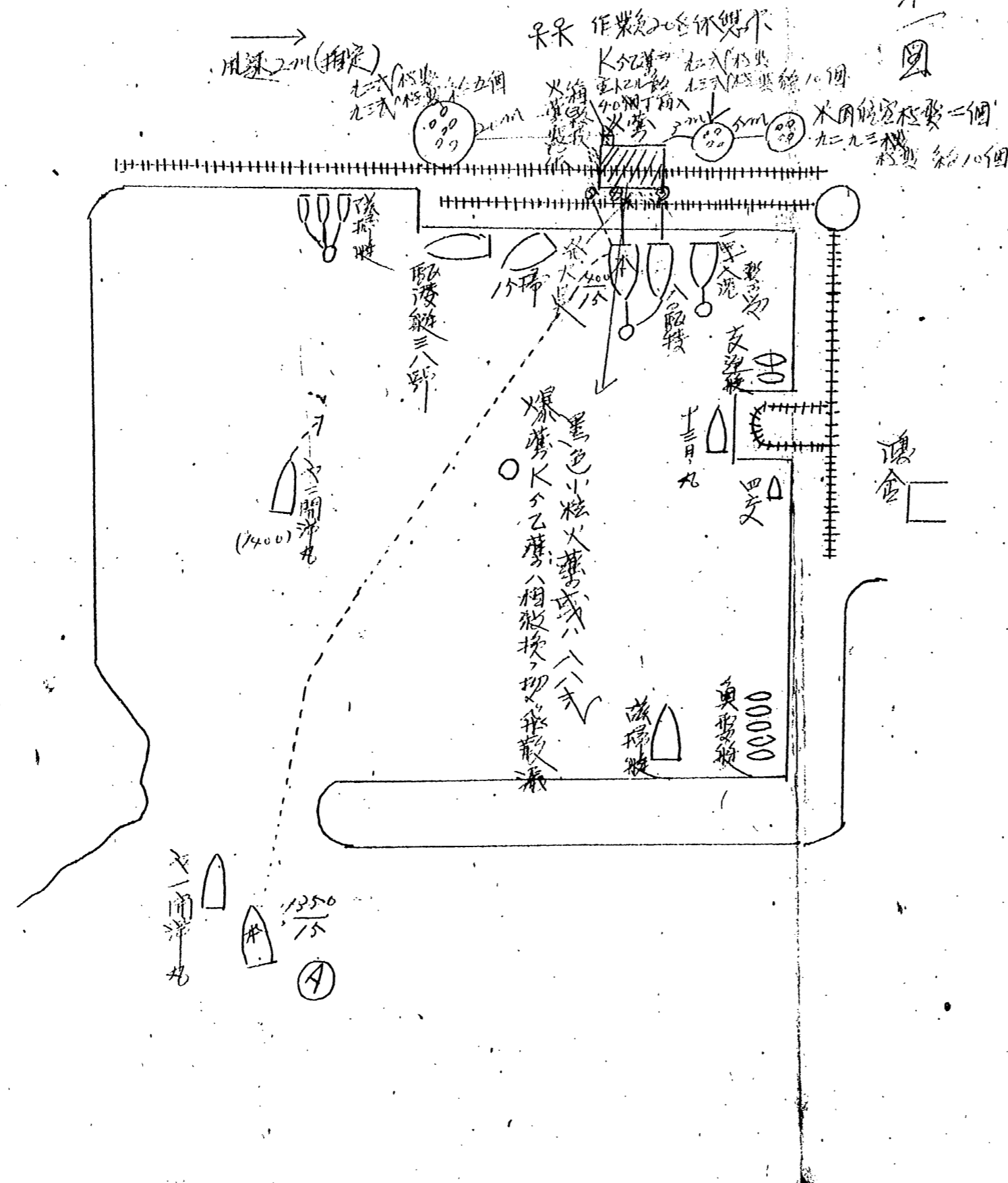
中村文雄

委員海軍法務大尉

三原健三

海軍

63



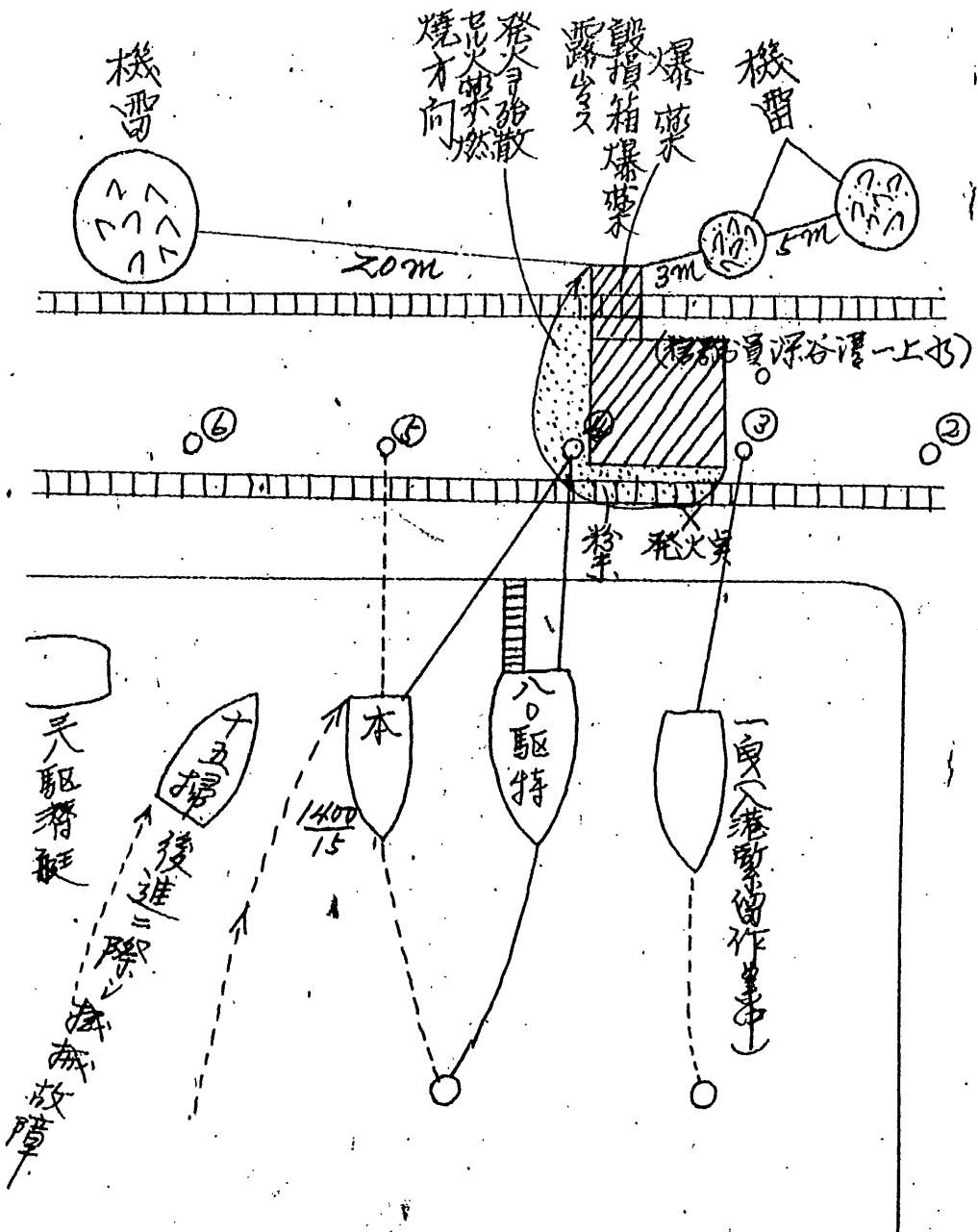
64



風速2米(推定)

作業員約20名休憩中
天(准士官)以上及古下士官十模樹

第二回



1329

録取書

鎮海防備隊

海軍中尉

松岡三郎

昭和五年四月二十日生

右者昭和二年十月十日鎮海防備隊機雷
爆発事故査問會ニ對シ任意左ノ通
述ヲ爲シタリ

一私所屬等級氏名前述致シマシタ通りデアリマス

一〇月今カラ本月十五日鎮海防備隊ニ於キマシテ機雷發

シタ事故ニツキマシテソノ狀況ヲ申シゲマス

一當時私鎮海防備隊所屬第八十號駆潜艇々長

海軍

ニ
字
挿
入

85

一 字削除

二 字挿入
一 字削除

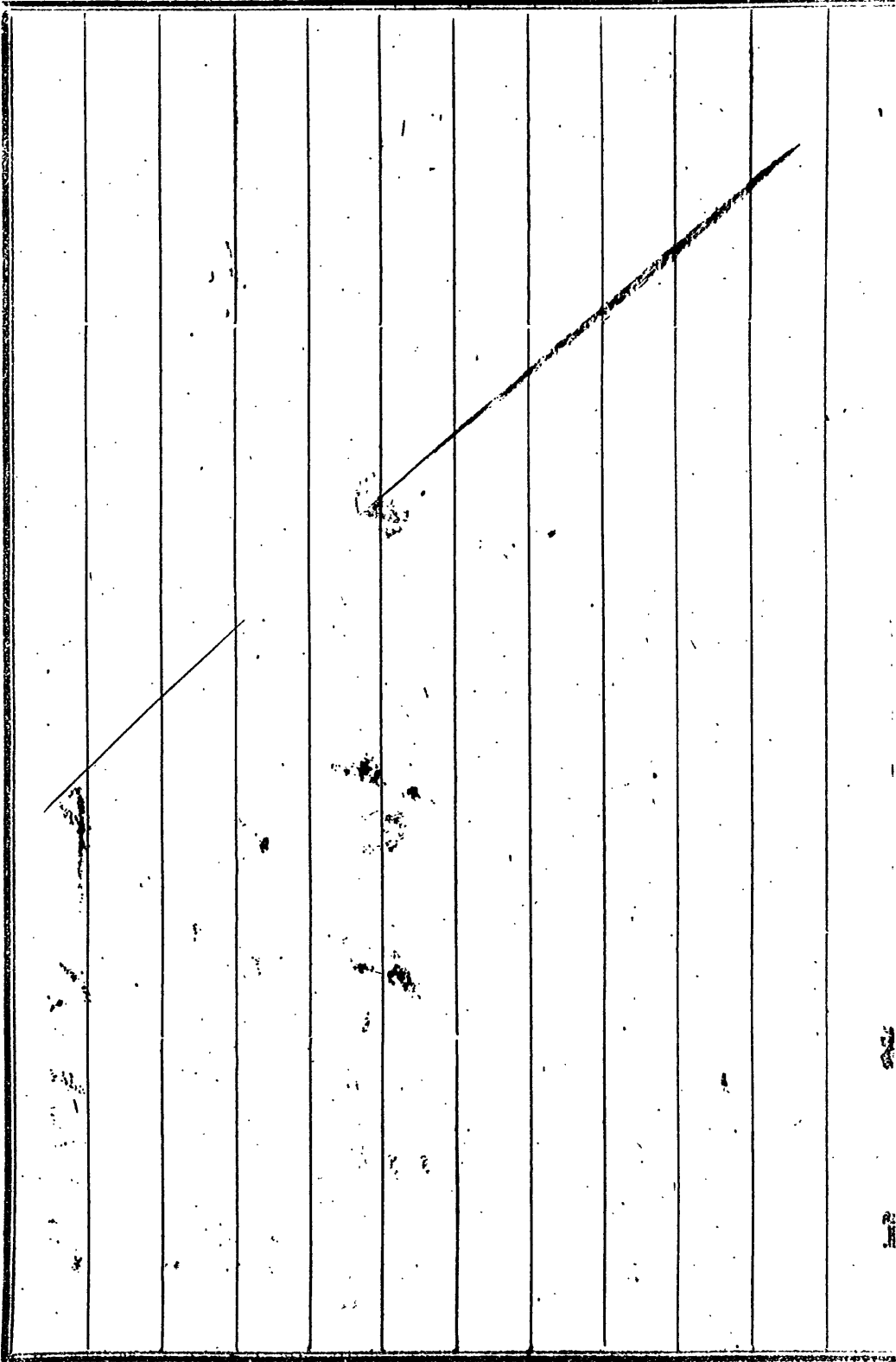
一 字挿入

又X 字挿入
一 字削除

二 字挿入

テアリミシタガ私ノ艇ハ鎮海整警備府命令ニ依リ海中
 掃海作業ニ從事シテ居リミシタガ当日私艇別圖
 ノ如キ位置ニ居リミシタ四番カ五番ビツトノ中間ニ大発一
 隻ガ横付シ搭載シテアル大発カ陸上中約半数揚ゲタ
 頃十六掃艇ノ號及十五掃艇ガ入港シテキタ爲大発ハ兩
 掃海艇繫留作業ノ邪魔ニナルカラト云フテ陸上作業
 中止シ西側ニ少シ移動シマシタ
 一入港シテキタ掃艇近キニ来マシタ時其ノ損丁
 度其ノ頃モヤイヲ取ル爲陸上トツテ居マシタ本艇ノ
 深谷上水原口上水ノ兩名ハ五番ビツトノ間掛ケマシタガ
 其處ハ不具合ト云フ十六掃艇長ノ命ニ依リ又四番

ビットニ取換へ四番ビットニ纜ヲ掛ケツツマリマシタ深谷
 上水左足靴ノ下ヨリ発火シタヤウニ記憶シテ居マス
 以後深谷上水ハ火傷ニ驚キスボンヲ脱ヤ入逃避シ又原口
 上水ハ纜ニ身ヲ托シテ海中ニ投身逃避致シマシタ
 一私ハ機雷爆發ヲ予想シホンド外ニ艇ヲ保安スル爲出
 港サセマシタ爲以後ノ事ハ判然ト幽見テ弁マセ又
 一現場ノ模様ハ一面小石ヲ敷キツメ火藥機雷等が集積
 積ミテアリマシタ ビットハ型クマクリートデツケテアリマシタ
 ソノ小石ニラジリ又コンクリート上ニ~~火~~火藥ノ粉末がアリマシタ
 一他ニ申シノベル事ハアリマセン



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1333

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

67

右録取ス

昭和二十年拾月廿拾日

鎮海防備隊機雷爆燃發事故査問會

書記海軍法務兵曹長

委員海軍法務大尉

中村文雄

三原健之

海軍

1334

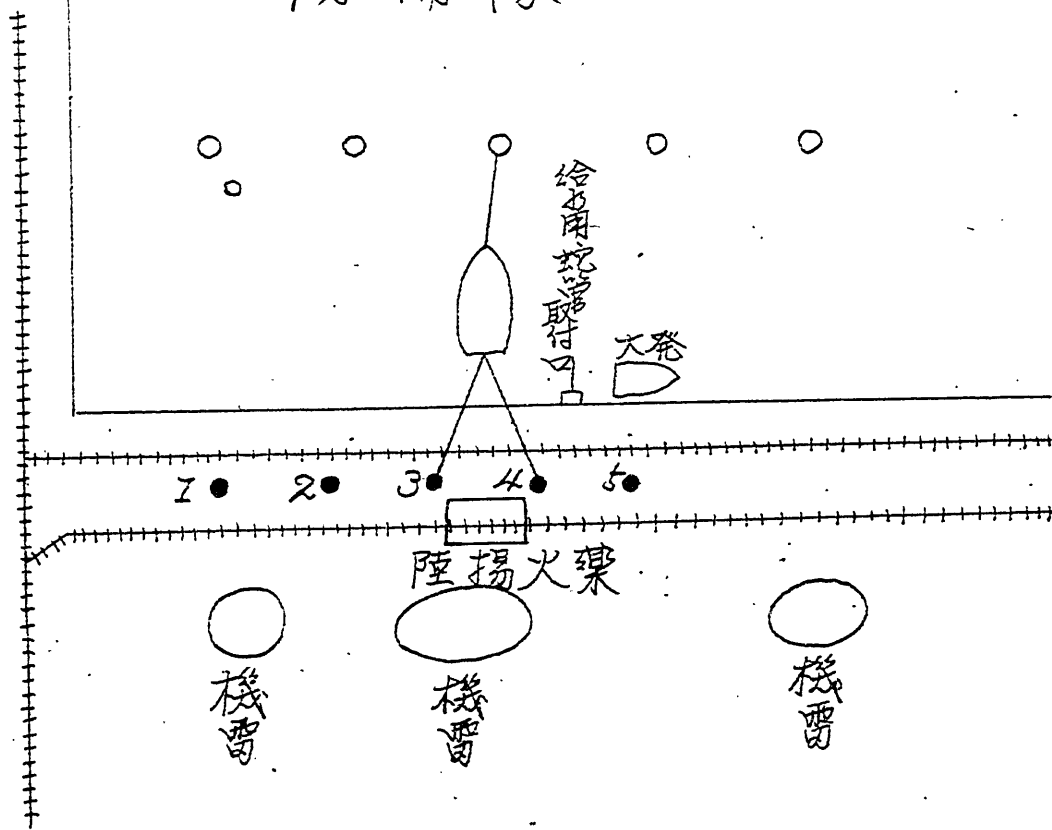
防備隊ポイント 別圖

凡例

○浮標

●要港

着岸、要港、マニラ



69

録取書

鎮海防備隊

海軍上等水兵 原口 等

昭和三年十月五日生

右者 昭和二年十月二日 鎮海防備隊機雷

爆発事故 故 査問會ニ對シ 任意 左ノ 通 陳

述ヲ 爲シタリ

一 私、所屬 等級 及 氏名 年令ハ 前 述、通リ アリマス

一 只今カラ 本月 十五日 鎮海防備隊内ニ 於キ、マシン 機雷 爆発 する

故ニ 就キ 當時、狀況ヲ 申上ゲマス

一 當時 私人 鎮海防備隊内 所屬 水兵 十 餘 駆潜持務艇ニ 乘組

海軍

別除

ミ同艇ハ鯨海警備府命令ニ依ル海中掃海作業ニ従ル
ニテ居リマシタ

一、当日十六時掃海艇が本艇ノ右舷ニ横付スルトニ付今ガアリマシタ
ノ予私ハ棒ヲ持ツテ予ツテ居マシタ。其時深谷上水ハ十六時掃
艇ノ纜ヲ取ル爲陸ニ上ツテ居リマシタガ篠原赤兵曹が今一人陸
ニ行ケトイフテ私が行キマシタ

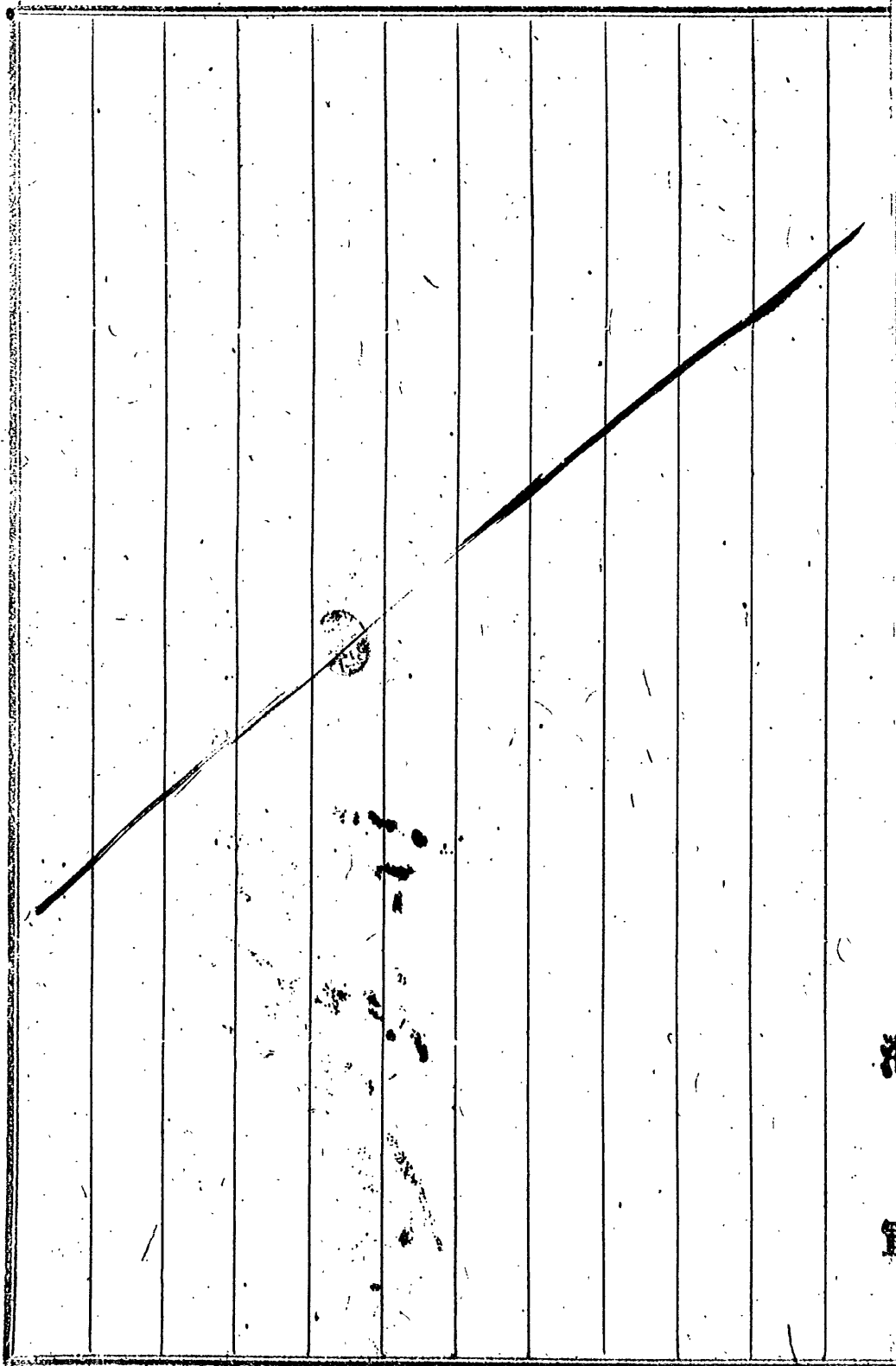
一、十六時掃艇が入港シ「サドレド」ヲ二回投ゲマシタガ届カズ、三回目ニ
届キ纜ヲ二人ヲ握リビットニ掛ケマシタガソノビットデハ不具合
ト云フテ次ノビットニ取換ヘマシタ際深谷上水ハ足靴下ヨリ
火ヲ発シ同人ハ下半身ノ火傷ヲ負ヒ逃避シ、私モ又莫大シタ爲
少々傷ヲ負ヒ纜ニ身ヲ托シ海中ニ投身逃ゲマシタ

火ノ生ジタノハ写違ヒナク深谷上水ノ丸足靴デアリマス、私カラテハ
アリマセヌ

一斯様ノ為発火ニ敬慕キ逃避ニタノテ纜ヲ取ツタビツトハ最初モ後モ
何番目ノビツトデアルカハ判然ト致シマセヌ

一現場附近ハ一面ニ小石ヲ敷キツメビツトハ堅クコシタリトテ固メテ
アリマシタ、又附近ニ火薬ホノ飛散シテ居リマシタ、外ニ火薬箱ヤ
撤留等が集積シテアリマシタ

一他ニ別ニ申述ベルコトハアリマセヌ



1339

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

71

右錄取ス

昭和二十年 台 月 日

鎮海防備隊機雷爆發事故査問會

書記海軍法務支曹長

委員海軍法務大尉

中村 又 三
原 健 三

海 軍

1340

録取書

鎮海海軍防備隊

海軍上等水兵 深谷 漢一

大正十三年一月十二日生

右者昭和二十一年十月二十日 鎮海防備隊機雷

爆発事故査問會ニ對シ任意左ノ通原

述ヲ爲シタリ

一私ノ所属等級及氏名年令ハ前述致シタリ通リテアリマス

一只今カラ本月十五日、鎮海防備隊内ニ於ケル機雷爆発事

故ニ就キマシテ知ツテイルヲ申上ゲマス

一当時私ハ鎮海防備隊所属第八十號 駆潜特務艇ニ乗

一字挿入

一字挿入

私ノ艇ハ鎮海警備府命令ニ依ル海中掃海作業ニ
従ルンテ居リマシタ

一日私ノ艇ハ鎮海防備隊内ホンド岸壁四ヵ所ニ纜
ヲ掛ケ繋留シテ居リマシタ。私ハ当日午後二時頃オ十六時掃

海特務艇入港直前迄ハオ十八時駆逐特務艇内甲板ニ
居マシタガ本艇ニオ十六時掃海特務艇ヨリ八十駆特右舷ニ横付

スルカラトイフ信務ガキマシタノデ私ハ直グ纜ヲ取ル爲ニ岸壁
ニ上ツテ待ツテオマシタ。シノ内十六時掃特入港シ「サードレンド」ヲ

二回投ゲテモカズ三回目ニ届キ纜ヲ取リニ後カラ上ツテオマ
原口上オト二人デ纜ヲ握リ四ヵカ五ヵカノピントニ掛ケマシタ

處ソレデハ具合ガ要イトイフテ十六時掃特艇長ヨリノ命令

デ左側、次、ピットニ取換(ヨウ)トシ私ト原(ヨ)ノ二人デ纜ヲソノピット
 ニ掛ケ持(ト)レテ是ニカヲ入レマシタ處私ノ左側靴下ヨリ突然火ヲ
 発シ袴ヨリ頭ノ所ニカケ一度ニ熱クナツタノヲ驚イテソノ儘病院
 ノ方ニ目散ニ~~建~~逃ケマシタ從ツテ私カ逃ケタ後ノ火勢カ狀
 況ハ判然ト致シマセヌ
 一ピットハ望ク一米半方位ノコナクリトト固メテアマシタ、当時私
 ノ衣イテ居リマシタ靴ハ海軍ノ短靴デアリマスガソノ靴ハ当且二年
 頃私が防備隊ノ四分隊ニ遊ビニキマシタ時自分ノ靴ハ盗マレテ
 仕舞ヒマシタノヲ其處ニアツタ誰カノ靴ヲ穿イテ及ツテキタノヲ
 アリマス、從ツテソノ靴ハ大變古イ靴デアツタるハ知ツテ耳マスガ
 靴ノ裏ニ金具ガ打ツテアツタカ、母カツタハ勿論覺エマセヌ

か私が纜ヲ握リ後ノピットニ掛ケル際私ノ左足靴下ヨリ火
シタニ同違ヒハアリセヌカラ恐ラウ靴ノ底ノ釘カ何カ金具ノ
ナモトフコクリートガ摩擦シタ瞬写ニ火カ出テソノ火カ当時火薬
ヲ運ハ際ノ下ニコボレテ井タ黄色イ火薬ノ粉ニ移ツタテハイカト
思ヒマス火薬ホカコボレテ井ルハ当時火カガ出ルホカラヨウ知ツテ
井マシタ

一当時ピットノ周リニハ先程申シマシタ様ニコクリートアリ又現場附近ニハ
一面ニ小石ヲ敷イテアリソノ孰レノ上ニモコボレタ火薬ガアルトハ知ツテ
井マシタが纜ヲトルニ一生懸命ニナツテ井タト又火ヲ取扱ツテハ
井ナカシタテ判ニソノ上ヲ靴ヲ歩イキタ位ヲ危イトハ金然考ヘテ
井マシタテシタ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1346

55

右録取ス

昭和二十年拾月式拾日

鎮海防備隊機雷爆発事故査問會

書記海軍法務兵曹長

委員海軍法務大尉

中村文彦
三原健三

海軍

1347

鎮海海軍

鎮海海軍軍需部

海軍中佐 佐藤正

右者 昭和二十年

十月二十二日

明治三十六年十一月十四日生

爆発事故 査問 會 對シ 任意 左ノ 通 陳 述ヲ 爲シタリ

一 私ノ 所 屬 等 級 及 氏 名 年 令 ハ 今 申 上 ゲ マシ ヲ 通 リ テ ア リ マス

一 只 今 カ ラ 本 月 十 五 日 鎮 海 防 備 隊 内 ニ 於 キ マシ テ 発 生 シ ヲ 概 略

爆 発 ス 故 ニ 就 キ マシ テ 申 上 ゲ マス

一 鎮 海 警 備 府 命 令 ニ 依 リ 機 雷 及 爆 藥 投 棄 作 業 ノ 方 法

二就イテハ色々相談ガアツタラデアリマスガ投棄爆薬ノ内ハ八八式爆薬ハ大變危険デアルヲテ結局海中投棄ガ一先安全デアルトイフヲデソレニ決シタノデアリマス

一作業ニ関スル指導者トシテハ大体防備隊司令ト軍需部長トノ打合せニタラテ軍需部長ニ於テハ陸上一切(即チ倉庫内カラ取ル)防備隊ポンド迄)ヲ受持チ以テ後ノ海上運搬ニ就イテハ防備隊ノオデ其ノ任ニ當ツテ貫テス事ニ大体ハキミツテ居リシヨリ軍需部長ノオトシテハ一般指揮官ハ軍需部長ノ下ニ任部員タル私デアリマスガ兵器主任タル永吉少尉ガ兵器一切ヲ取扱ツテ居ル關係カラ作業ニ関スルオノ向人ニ任レテアル様ナ状態デアリシヨリ防備隊ノオカラ坐サレタ投棄作業ニ當ツテ居ル艇ハ十五号ノ掃

海特務艇、十六隻、掃海特務艇、二十三、駆潜特務艇、二十八
駆潜特務艇、一隻、田村丸、六杯、デアリマシタ

一、前述ノ立杯ノ船ハ大体〇八〇〇頃迄港ニテ一六〇〇頃防備隊ホ

下ニ般港、同時ニ積込作業ニ当リマシタガ夜半二二〇〇過ギ頃迄

掛り積込ヲ終リ、翌日ハ前述ノ時寫ニ当港ニテ投棄作業ニ行

クトイフヤウナ日ヲ續ケテ居ツタノデアリマス

一、現場ハ軍需部ヨリノ要求ニ依リ作業員派遣先ヨリ作業監

督者トシテ作業員百人ニ付准士官以上一人ヲ当ス事ニナツテ午三

時が實際ハ仲々ソレモ尠未ズ五百人ニ付一人トイフ割合デアリマシタ

而モ私モ兵器主任モ投棄物報告書~~提出~~急ガキラ何時何處

カラ如何様ノ兵器ヲドレ程当ニテ如何ナル船ニ實際ノ処斯様ノ兵

器ヲコレダケ積ニダトイフ様ニ詳細ニ報告スル様ニ嚴格ニ命ゼ
 居リマシタラズ實際ノ仕事ノ方モ急ガレウ仲々司令部カラス
 亦ニ應ジ兼ネル有様ヲ私等オトシテモソレヲ~~手~~手が足ラヌ位
 忙デアリマシタ爲ニ一課ニ小松主計中尉~~ヲ~~ニカ居リマセヌ
 タガソノ人ニ書類報告ノ任ニ当ツテ貫フ事ニシテ居リマシタモノ
 同人ニハツケタリ~~ノ~~作業ノ監督ヲレテ貫フ事ニシテ~~キ~~キマシタカ
 本来ノ任務ハ飽迄書類報告デアリマスカラ作業ノ監督ノ任ハ
 兵器主任デアリマスソレヲ爆発多現場ノ作業監督ハ兵器主任
 ノ下ノ福岡英夫兵器曹ガヤツキマシタガ人があハテ監督ノ思フ様
 ニ行キマセンデシタ

一、大砲投棄作業ハ十~~日~~頃ヨリ始マシタマシニ記憶シテ居リマス

ンノ時現場ニ運ニ火薬ハ小毛カのヨリ大発ヲ以テ運ビ越前ハ飛
 鳳里ノ墜道内ニ格納ニテアリマシタラ「トラック」ニテ運ニテ居リマシタ
 前日ニ半分ハ十五日ニ半分ハ許リ運搬ニシタ、大体ニ於テソノ日ニ現場
 ニ運ニテ火薬ハ越前ハ船ニ積メル丈積ニテイタクテアリマスト云フハ
 司令部要球ハ一日モ早ク投棄作業終了シラ五眼ニテ居リ
 マシタ為テアリマス投棄作業終了シ予定ハ十月十五日ニトナツテ并
 タカラテス然レンシレテモ終ラズ十七日迄ハ是非トモナシトゲ様ト考
 ヘテ耳マシタ又越前ト火薬ト別々ニセズ共ニ積込ニテ居ル実テア
 リマシタガ船底ハ狭ク為リ天キナ越前等ヲ下入レシハ困難デアリ
 マシタ関係カラ下ニハ樂ニル火薬類等ヲ入レテ逐次積ミ良ク物
 ヲ上ニテ積ニテ居タテアリマス斯様ナるヲシマシタノモ量ハ問題

ト時写的ニ少レテモ短時写ニ多クノ量ヲ投テ申スル考ヘカレテアリ
マシタ

一敵ヲ戒ト云テアリマスガ此ノヤウナク危険物作業ヲヤルニツキマシテ敵言

戒兵ノ派遣モナク艇ニ積込ガ物ニ付シテハ艇ノ者達ニ任セ陸上ニ

積残リニナツタ物ニ付シテハ防備隊ノ動哨兵ニ任シテ檢ナケ

好デアリマシタ

一当時ノ現場附近ニ大變火藥ガ飛散シテ居タトイフノハ先

程申シタノ様ニ投棄作業ヲ非常ニ忙シクシテ箱詰中ノ包

紙表紙ガイタラシ居ル處ニ運搬ノ際作業員ノ取扱ガ荒ク箱

詰中ノ包装紙ガイタラシ又箱ガ破レ飛散シタ爲ト思ハレマス斯

様ナ場合ハ直ガ積込ノ終ツタ後掃除デモンテ居ケバ良ナラズ

27

があつて申上げました。如く朝早くから晩遅く迄の作業を
 リマストデ積込の終つた二二〇〇過頂デハ如何ヤウニモスル事ハ
 未セヌテニタ。現場ハ夜間作業之出来ルヤウニモ燈ノ設備モ無
 ク真暗デソノ儘ニレテニマフト云フヤウナ有様デアリマシタ
 一 作業開始デハニ作業者員ニ当ル者達ハ一心ノ注意ヲ致シ
 タモノ、各所屬カラ派遣サレテ~~ハ~~者達ハ毎日文替デ出来ルヤ
 ウナ有様デ徹底シタ事モ出来ズ入用丈ノ作業員ヲ派遣シテ
 レズ手不足多ク私ト致シマシテモ現場ニミ固着スルコトガ出来
 セ又~~ハ~~係カラオマンカニ致レテ居リマシタ。艇ニ乗組ンデ居ル者達
 ニハ出来ル丈言ツテハオキマシガ陸上作業員ハ出来兼テ居ル
 状態デアリマシタ。又連絡デアリマスガ之レモ~~ハ~~認知加ク近頃モ話

ヲ頼ミニスル様ナリ急ナ場合ニ到底留ニ合ヒ兼ニ有様ナリ
リマシタ

一私ハ事故後ノ所見ト致シマシテハ作業後ハ直ニ附近ニ散乱ニテ井ル火
薬ノ粉末ヲ掃除スル様ニ力メ作業員ニハゴク地下定袋ヲ穿ル
ヤウニシタガイト思ヒマス、尚火苗ト扱留ハ同一場所デナラ或ル
ノ間隔ヲ取ツテ集積スレバ良カツタト思ヒマス

一当日ハ私ハ釜釜高ニ火薬ヲセロトシ許リ運テ同処ニ向キ
取ツキキタリデアリマシタ又ハ松申尉ハ事故発生後ハ里帯部ニキテ
居クシテスガ火災発生ハ急報ニ現場ニガケツケタト云フ事
デアリマシタ

一他ニ別ニ申述
球
ベルフトハアリマセ又

80

右録取ス

昭和二十年拾月十一日

鎮海防備隊機雷爆發事故査問會

書記海軍法務支曹長

委員海軍法務大尉

中村文雄
三原健三

海軍

1356